

普及だより

2009年春号

発行所

海草振興局
産業振興部農業振興課
〒640-8585
和歌山市小松原通1-1
TEL: 073-432-4111 (代)
073-441-3378 (直)
FAX: 073-441-3476



米づくり体験



農業士女性部会研修会



鳥獣害対策現地検討会



農業後継者育成検討会

安心安全な農産物を消費者へ！

米国発のサブプライムローンの破綻から経済危機が世界を覆うなか、投機資金が原材料市場に向かうとともに、新興国での食料需要の増大や穀物のバイオ燃料への転換などにより、食料価格が異常に高騰する事態が発生致しました。

また、食品の偽装表示や中国製冷凍ギョウザ中毒事件などにより、農産物に対する安全安心志向の高まりから、国内農産物への回帰が強まっています。

このような中、食料の60%を海外からの輸入に頼っている我が国にとって、国内の食糧供給力の強化は喫緊の課題であります。

昨年、今後の10年を見据えた長期総合計画を策定し、農地の有効活用や多様な担い手の確保、更には合理的・効率的な生産手法の導入や技術開発の推進を通じ、農業生産の維持拡大を図ってまいります。

また、農産物の販売促進に力を入れ、輸出も含めた新たな販売戦略を構築してまいります。

農産物の安心・安全に対する取り組みとしましても、残留農薬の収穫前、出荷段階での検査を実施する施策を推進してまいりたいと考えております。

皆様方のご支援とご尽力をよろしくお願いいたします。

海草振興局産業振興部長 二澤英雄

担い手育成に向けた取り組み

(1) ～地域の担い手について考えよう～

和海地方農業生活連絡協議会と和歌山県の共催で「和海地方農業担い手育成研修会」を開催し、約70名が参加しました。



《講演》

「儲かる農業で担い手育成」

農業生産法人「るシオールファーム」徳地好雄氏

《事例発表》

和海地方生活研究グループ連絡協議会 川内会長
海南市4Hクラブ連合会 松尾氏

「後継者育成は関係機関の協力も必要だが、農家自身がやらなければならない」と徳地氏の力強い言葉に参加者は聞き入っていました。

川内会長から「農村の自然や伝統文化を守っていききたい」、松尾氏からは「和歌山を元気にするため農業でがんばりたい」と発表がありました。

参加者からは「農家自身が前向きに考えないと後継者はできないな」との感想も聞かれ、有意義な研修会となりました。

(2) ～農業後継者育成検討会～

後継者不足や農業従事者の高齢化が進み、農業担い手の育成が重要な課題となっている中で、海南市農業士会と下津町農業士会で後継者の育成について検討会を実施しました。

3グループに分かれて検討し、その内容を発表しました。

「農家所得が安定していない」など多くの意見が出され、今後、農業士会でできることや行政、JAに期待することについて検討を行いました。

農業士からは有意義な会であったとの意見もあり、この取り組みを続けていくこととしています。



新規就農者支援

新規就農者の基礎的農業技術の習得と相互の交流を目的に研修会を開催しています。

平成20年度は、野菜（軟弱野菜）、花き（花壇苗）、果樹（柑橘）の3部門について、指導農業士の西村さん、山口さん、中西さんを講師に7名の参加で研修会を行いました。

地域の先輩方から、農業をする上での心構えをはじめ、それぞれの経営状況、土づくりの大切さなどについてお話を聞きました。



参加者からは、「栽培はもちろん、販売まで考えて経営していかないとこれからは生き残れないと改めて感じた。」「研修をきっかけに、地域の先輩方に相談するのはもちろん、新規就農者同士でも連携していきたい」といった声が聞かれました。

今後もこのような研修会を通して、新規就農者の支援を行っていきます。

食育の推進

食育活動を通じて子どもたちに食べ物大切さや農業への理解を深めてもらう活動を行っています

○みかんの苗木栽培体験

2小学校でみかんのポット苗の植え付け体験を行いました。生育や栽培方法について説明を行い、育てる喜びを伝えました。



○みんなで梅干し

2小学校で梅干し作り体験を行いました。うめ研究所と農業振興課から梅クイズも交えて梅の説明と梅加工を行いました。



○シェフの技を体験

県調理士会、JAの協力を得て、3小学校においてキッズシェフ体験を行いました。児童たちはプロの料理人直伝の技と味を実感できたようです。



○米づくり体験

2小学校で農家の指導のもと、田植えと収穫作業を体験しました。収穫したお米を用いて調理実習も行い、お米の大切さを学びました。



土壌消毒薬剤の現地試験

薬剤による土壌消毒は処理時の揮散ガス、またその対策が農家の大きな負担となっています。そこで土壌消毒剤「クロピクフロー」の現地試験を行いました。

処理方法は、灌水チューブを敷設してシート被覆後、液肥混入器で薬剤を注入します。

この方法は灌水チューブで薬剤を投下するため、直接人体に影響がなく、作業の省力化が図れます。

スプレーギク、ホウレンソウ、ショウガで取り組みましたが、現在のところ、薬害もなく、病害虫の発生は見られていません。

～処理の手順～

- ① ほ場の整地耕うん
- ② 配管設置
- ③ 灌水チューブ設置
- ④ 水漏れチェックと水圧調整
- ⑤ ポリエチレン等のシートで被覆
- ⑥ 液肥混入器での薬剤処理
- ⑦ 灌水設備の洗浄
- ⑧ ほ場の耕うん(ガス抜き)



～参考～

処理面積:16a 作業人数:3名

| | 配管組立・設置 | 灌水チューブ敷設 | 被覆 | 処理 | 合計 |
|------------------------------|---------|----------|------|------|------|
| 作業時間 | 3.5h(※) | 1.0h | 2.0h | 2.5h | 9.0h |
| ※ 2年目以降、配管は設置のみで0.5h(合計6.0h) | | | | | |

地産地消の推進

新鮮な地元農産物の活用を！

ＪＡながみねとの共催で、一般消費者を対象に地元産の梅、季節の野菜を使った加工体験を「とれたて広場」研修室で実施しました。

6月22日には砂糖と塩を使った手作り梅干し作り体験、12月14日、2月22日には白菜の漬け物体験を行いました。



参加者は作業のこつや注意点を聞いたり、他の加工品についても挑戦してみたいと意欲的で、農産加工への関心が高まって地元農産物の消費拡大につながることを期待しています。

新品種の紹介

◎カキ品種「太天」「太月」の品種特性

両品種とも(独)果樹研究所において「黒熊」×「太秋」の交雑により育成された品種で、不完全渋ガキです。

- ・「太月」は10月下旬から11月初めに成熟し、果形は腰高、糖度16度
- ・「太天」は、11月上旬に成熟し、果形はやや扁平、糖度17度
- ・結実が安定しており、栽培容易な品種で果実は400gと大きい。脱渋は容易で9月下旬の樹上脱渋により果肉に褐斑が入り、多汁で「太秋」に近い食感の良いカキになります。



◎「まりひめ」の品種特性

「章姫」を母親、「さちのか」を父親として、県で交配・育成した品種です。

- ・花芽分化時期は「さちのか」より1週間程度早い。
- ・収穫開始時期は12月上旬頃。
- ・収量は「さちのか」に比べ120%以上と多収で、果形の揃いも良く、上物率が高い。
- ・果形は肩部がやや丸みを帯びた円錐形で、糖度は「さちのか」と同等。果皮および果肉の硬さは「さちのか」より軟らかい。



不知火水腐れ防止対策技術の検討

露地の不知火は袋掛けが必要となりますが、袋口部の水遮断が不完全なことで果実の形状から降雨で水がたまり腐敗が発生して果皮傷害や落果が問題となっています。

そこで、袋口部にメダルを巻くなどの袋掛け方法に改良を加え、水腐れの果皮障害等対策技術の検討を行いました。

(試験区)

| 袋の種類 | テープ種類 |
|------------|---------------|
| 紙製(2種類)、サテ | メダル、シバル、テープなし |



調査の結果、各試験区において水腐れの発生が殆ど確認されませんでした。

今回、テープなし区でも丁寧に袋がけを行ったことで水腐れの発生が少なかったことから、袋の掛け方でも発生が抑えられる可能性があると考えられます。

今後、果実品質調査を含めて袋掛け方法、収穫時期の検討を行っていきます。

受賞おめでとうございます

農事功績表彰

社団法人 大日本農会が実施する農事功績表彰において、和歌山市の泉政一氏が緑白綬有功章を受章されました。

日本有数のしょうが産地形成や夏ほうれんそうの生産安定などに貢献されました。

また、県農大生の受入など担い手育成についても尽力されており、これらの活動が評価されました。



豊かなむらづくり表彰

「平成20年度豊かなむらづくり近畿農政局長賞」に海南市海老谷地区が受賞されました。

米づくり体験・棚田オーナー制度や鳥獣害防止対策などの農業生産活動による集落の活性化への取り組みが評価されました。



和歌山県農林水産業賞受賞

平成20年度は1名、1団体が受賞されました。

農業部門 吉本好澄さん(和歌山市)
地域づくり部門 海南市海老谷集落(海南市)
代表 峯本稔さん



左から
峯本さん、
吉本さん

この賞は農林水産業の振興発展並びに農山漁村の活性化に貢献し、業績が特に優れ、他の模範となるべき個人及び団体の功績を表すものです。

女性・高齢者グループの生活・生産に関する表彰

平成20年度女性・高齢者グループの生活・生産に関する表彰において、和歌山市生活研究グループ連絡協議会が知事賞を受賞しました。

長年にわたる食育や地産地消を促進する活動が高く評価されました。



編集後記

アメリカではアフリカ系アメリカ人初のオバマ大統領が誕生しました。掲げた言葉は「チェンジ」「イエス・ウィー・キャン」

世界同時不況の中、経済情勢が悪化し、消費の減退など厳しい時代が予想されますが、農業も変革が必要な時にきているのかもしれない。

★和歌山県優良県産品（プレミアム和歌山）推奨制度！
県では、安全・安心を基本に幅広い分野で優れた県産品を“和歌山らしさ”、“和歌山ならではの”の視点で推奨する「和歌山県優良県産品（プレミアム和歌山）推奨制度」を制定しました。

平成20年12月には、第1回目のプレミアム和歌山推奨品が決定され、みかんや梅干しなどの農産物・農産加工品も多く選出されています。

詳しくは、振興局までお問い合わせ下さい。



プレミアム和歌山